

グラスルーツグローバルイゼーション
-草の根・地域からの地球一体化推進-

広田秀樹ゼミナール

08E008 王慧
08E034 高橋健幸
08E047 本間圭
08E048 松永貴幸
06B024 大槻翔理
09 E 062 吉原義和
09 E 006 伊丹彰
09 E 008 内山慎也
09 E 031 佐藤友靖
09 E 015 大屋翔馬
09 E 403 松沢知生
09 E 018 小川原玄

目 次

はじめに

1. Study

1. 1 グローバリゼーションの定義

1. 2 グローバリゼーションの発展過程

1. 3 グローバリゼーションの恩恵と多様な次元

1. 4 グローバリゼーションの諸問題とグラスルーツグローバリゼーションの重要性

2. Invite

2. 1 長岡市国際交流センター十見智子氏を招待

2. 2 メキシコ人留学生イスラエル・エダンド・レンド・ビロン氏を招待

2. 3 アガペー聖書バプテスト教会宣教師ウィリアム・ラッセル・スタンフォード氏を招待

3. Visit

3. 1 アメリカからの若者達との交流

3. 2 「長岡まつり前夜祭大民謡流し」への参加

3. 3 「王寺川国際稲刈り祭り」への参加

3. 4 「世界の仲間と運動会」への参加

4. Donate

おわりに

謝辞

グラスルーツグローバルイゼーション

-草の根・地域からの地球一体化推進-

はじめに

現代という「時代」の最大の特徴の一つは、「グローバルイゼーション(地球一体化)」の急速な進展にあると考える。

グローバルイゼーションの進展は確かに、世界 GDP の拡大、世界貿易の拡大、世界的な直接投資の拡大等、多様な点で世界経済を発展させている。

私達の日常生活を見ても、現在の私達は毎日、世界中の情報に衛星テレビ・インターネットを通じてふれることができ、スーパーマーケット、デパート、さまざまなお店に行けば、海外からの品物を買うことができる。

100 円ショップが象徴的なように、世界からの商品が流入して競争が活発になったおかげで、商品の値段は全般的に安くなっている。

また、外国の人と接することが日常的に多くなり、地域においても、異文化にふれる機会が増えた。外国人の方の中には、お店を出したり、会社をつくったりする人も出てきている。

何よりも、グローバル化の進展によって、海外に渡航するチャンスが増えてきたことは、うれしいことである。ゼミのメンバーの中にも、アメリカ・中国・韓国等への渡航を経験した者がいる。海外渡航は、視野を一挙に拡大し、人間的・知的なレベルアップをもたらす絶好の機会を若者に与えてくれている。

さらに、グローバル化の進展で、EU・G20 に象徴的なように、政治的な次元での国際調整が高度化し、地球レベルの政治的ないし社会統制的統合という可能性すら視野に入ってきた。

しかし、グローバル化はこのような多大なメリットをもたらす一方で、否定的な現象も引き起こしている。例えば、グローバルレベルの競争経済の中で、日本の人々の賃金は全般的に下落して行く傾向にある。対照的に、グローバルビジネスの中で莫大な富を獲得する人もあらわれ、社会はかつての平等化された社会からいわゆる格差社会の様相を現出させてきている。激しいグローバル競争の中で、地域の企業・店が倒産するケースも出てきている。そのような傾向は人心を荒廃させる遠因にすらなっている。

多くの外国の方の到来を歓迎する人が多くいる一方で、異文化理解が進まず摩擦が起きるとか、犯罪の発生の危惧を語る人もいる。

グローバル化の過程で最もあってはならないことは、多様な人種・民族・国籍・文明を背景にした人間の間での、相互理解の欠如を淵源とした紛争、戦争等の深刻な争いである。

私たちは基本的に、グローバル化はストップをかけるものではなく、人類史における画期的な潮流として、受け入れ進展すべきであると考えます。

グローバル化がもたらす多様な問題を乗り越えるためには、迂遠なようであるが、「世界の一人一人が、出会い、対話し、交流する」ことこそが必要であり、そのような活動を、

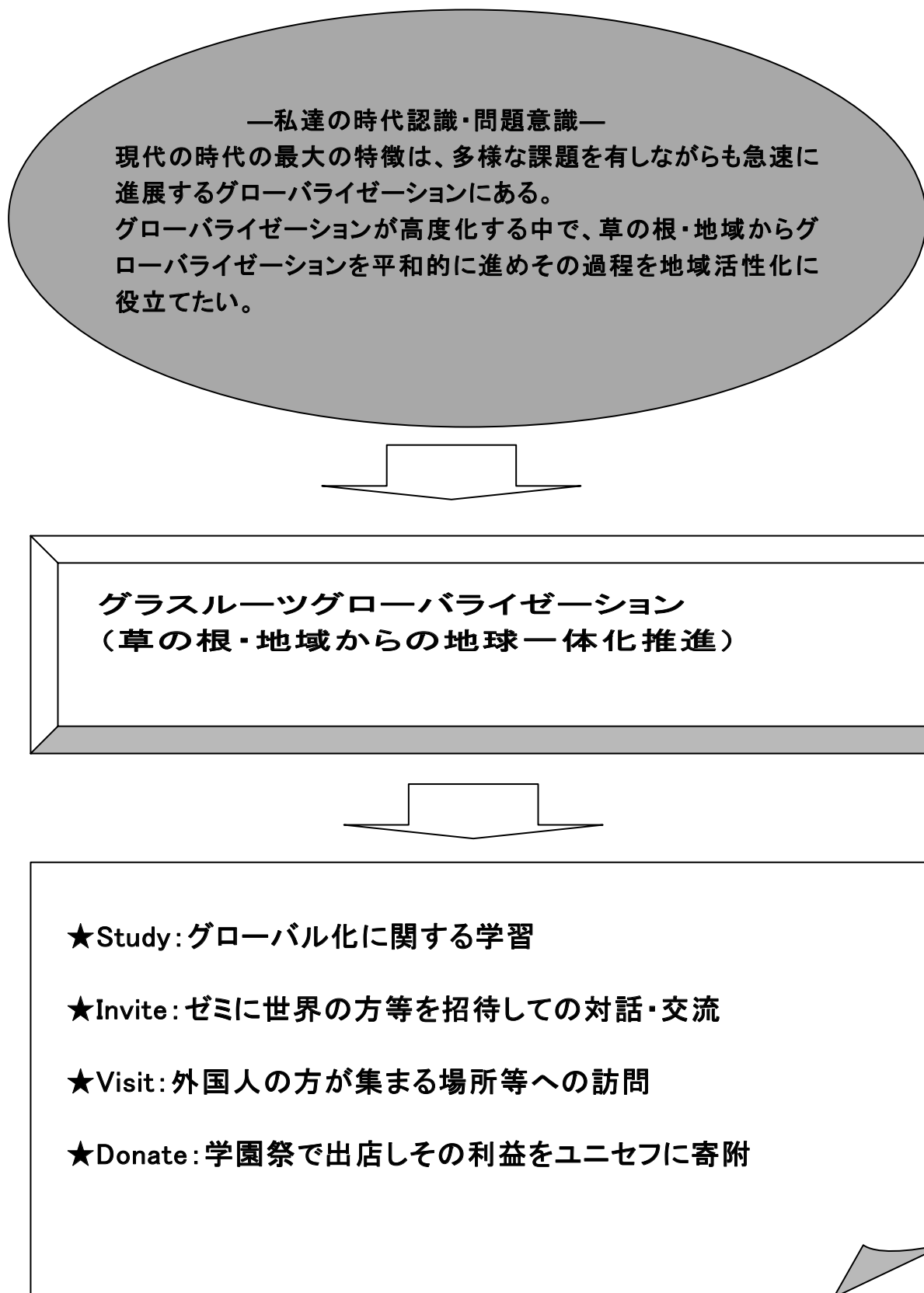
私達は、「グラスルーツグローバルイゼーション—草の根・地域からの地球一体化推進—」と呼びたい。世界各地での「グラスルーツグローバルイゼーション」の拡大こそが、グローバル化を平和的にランディングさせ行く底流となると確信する。

私達は、「グラスルーツグローバルイゼーション」の具体的な方法として、以下の4つを打ち立てた。

即ち、第1に、グローバルイゼーションに関する学習(Study)、第2に、世界から来られた外国人の方等をゼミに招待しての対話・交流(Invite)、第3に、外国人の方が集まる場所等への訪問(Visit)、第4に、学園祭に出店しその利益をユニセフに寄附する(Donate)、である。

本レポートでは、今年度一年間の活動を報告したい。

図 1：ゼミ生の時代認識・問題意識と「グラスルーツグローバルイゼーション」



1. Study

私達は4月・5月を中心に、グローバリゼーションについて徹底して学習した。学習形態としては、皆で、グローバリゼーションに関する様々な資料を持ち寄り、グループディスカッションを行うという方法をとった。以下、ゼミ生が、学習してきた内容の主要部分を紹介したい。

1.1 グローバリゼーションの定義

グローバリゼーションとは、英語では「Globalization」、日本語では「地球一体化・グローバル化」、中国語では「全球化」と呼ばれている。グローバリゼーションとは、「経済、情報、政治、文化、人々の意識など、あらゆる点で世界的交流が盛んになり、世界全体が一体化し行く、人類史における画期的なトレンド」であると定義できる。そして、グローバリゼーションは、今後も急速に高度化すると予想され、それは基本的にストップをかけるものではなく、多様な調整過程を経ながら、効果的に受け入れていくべきものであると考える。

1.2 グローバリゼーションの発展過程

グローバリゼーションの発展過程に関しては多様な分析があるが、私達は次のようにグローバリゼーションの発展過程の理解をまとめた。

1800年代から1900年代初頭にかけて、世界各地で、国家(Nation-state)が急速に確立し、やがてその潮流は、「国家第一主義(State First)」とも言える過度な国家中心の時代にまで高まっていった。そしてそれは、第1次世界大戦、第2次世界大戦という国家が激しく衝突する極点に達した。

1945年以降、極端な国家主義による悲劇の反省から、「国際協調主義」が発展した。そして、国際的な利害調整機関の活動を中心とした国際協調主義を具現化する制度が徐々に構築されていった。その代表的なものが、国際連合(UN)、国際通貨基金(IMF)、世界銀行(The World Bank)、関税と貿易に関する一般協定(GATT)等である。世界全体で、国益を越えた「世界共通の利益」を指向するトレンドが本格的に出てきたと言える。

それでも、1950年代、60年代、70年代と、世界は大枠で、アメリカを中心とした自由主義・民主主義・資本主義圏、ソビエト連邦を中心とした社会主義・計画経済圏に分断され、地球一体化、グローバル化とはとても言えない状態が長く続いた。世界の多くの人々は、このような「分断された世界体制」が半永久的に継続するものと考えていた。

時代が大きく本格的なグローバル化に舵を切ったのは、1980年代であった。1980年代の国際政治の変化に、本格的なグローバル化への突破口が現出した。

1981年にアメリカでレーガン政権が誕生した。レーガンの基本スタンスは、力による平和(Peace through Strength)という、国際政治学者アルバート＝ウォルステッター等の思想を基盤としていた。レーガンは、圧倒的な、軍事力、技術力、諜報力、経済力、メディア力、文化力などのPowersを最高度に高め、社会主義圏を圧倒していく戦略を展開した。

レーガン政権第1期には、壮絶な軍事拡大が行われた。陸海空の通常兵器、戦略兵器の開発、拡大を進め、中距離核ミサイルもヨーロッパに配備された。さらに宇宙空間から敵対国のミサイルを捕捉し破壊するといういわゆるSDI (Strategic Defense Initiative) 構想まで打ち上げられた。

特に、SDIは、それまでのMAD (Mutual Assured Destruction: 相互確証破壊) という、米ソの核抑止力論、つまり、戦略核兵器は現実には使えないという国際政治理論自体を止揚する可能性を有するもので、当時のソ連のトップリーダー達に大変な脅威を与えた。また、レーガンは、イギリスのサッチャー政権、日本の中曽根政権、ドイツのコール政権等と強い同盟関係を構築し、外交ネットワーク上でも、ソ連を包囲し追いつめていった。

レーガン政権の力で圧倒する戦略に、1980年代前半、ソ連も当初、軍事戦略、外交戦略で対抗した。しかし、その過程で、不思議なことに、ソ連の最高指導者が、ブレジネフ、アンドロポフ、チェルネンコと、3人立て続けに死去していった。そして、1985年に、ゴルバチョフが、ソ連の最高指導者に就任した。

ゴルバチョフは、それまでのソ連の指導者とは違っていった。ゴルバチョフは基本的に、非効率な経済活動に浸食されたソビエトの国内社会経済改革の必要性を強く感じていた。実際、国内経済社会を活性化するために、ペレストロイカ、グラスノスチといった、「自由度を許容した国内政策」を進めていった。そして、国内改革を進める上で、対外戦略での負担を軽減したかったゴルバチョフは、「新思考外交」を打ち出し、積極的に西側との対話、軍縮に臨んでいった。その流れの中で、1985年ジュネーブ、1986年レイキャビック、1987年ワシントン、1988年モスクワでの歴史的な、レーガン・ゴルバチョフによる米ソ首脳会談が開催され、INF (中距離核戦力) 全廃条約、戦略核兵器制限条約への進展など、具体的な成果が生まれていった。

さらに、ゴルバチョフはブレジネフ以来の社会主義同盟諸国の国内政策等をソ連が制限する作用を持っていた「制限主権論」との決別を宣言し、社会主義諸国が自らの意志、世論で国のかたちをきめていくことを認めた。その結果、世界、特に、ヨーロッパの社会主義諸国で急速に、政治的には民主化、自由化が、経済的には資本主義型の市場経済化が進んだ。

1989年10月、東西分断の象徴であったベルリンの壁が崩壊し、同年12月、自由主義圏・社会主義圏間での冷戦を終結する宣言がなされた。

1991年、急速な自由化、民主化、市場経済化のうねりの中で、第2次世界大戦以降国際政治における社会主義陣営の司令塔として君臨してきたソビエト社会主義共和国連邦自体が消滅した。そして、世界の社会主義体制は一挙に消滅に向かった。

1990年代後半、2000年以降、全世界にさらに、自由主義、市場競争システム、資本主義、民主主義が広がり、世界各国の経済的な結びつきが加速度的に緊密になり、地球全体が一体化して行くグローバル化の時代に突入していった。

図 2：グローバリゼーションの発展過程の概略

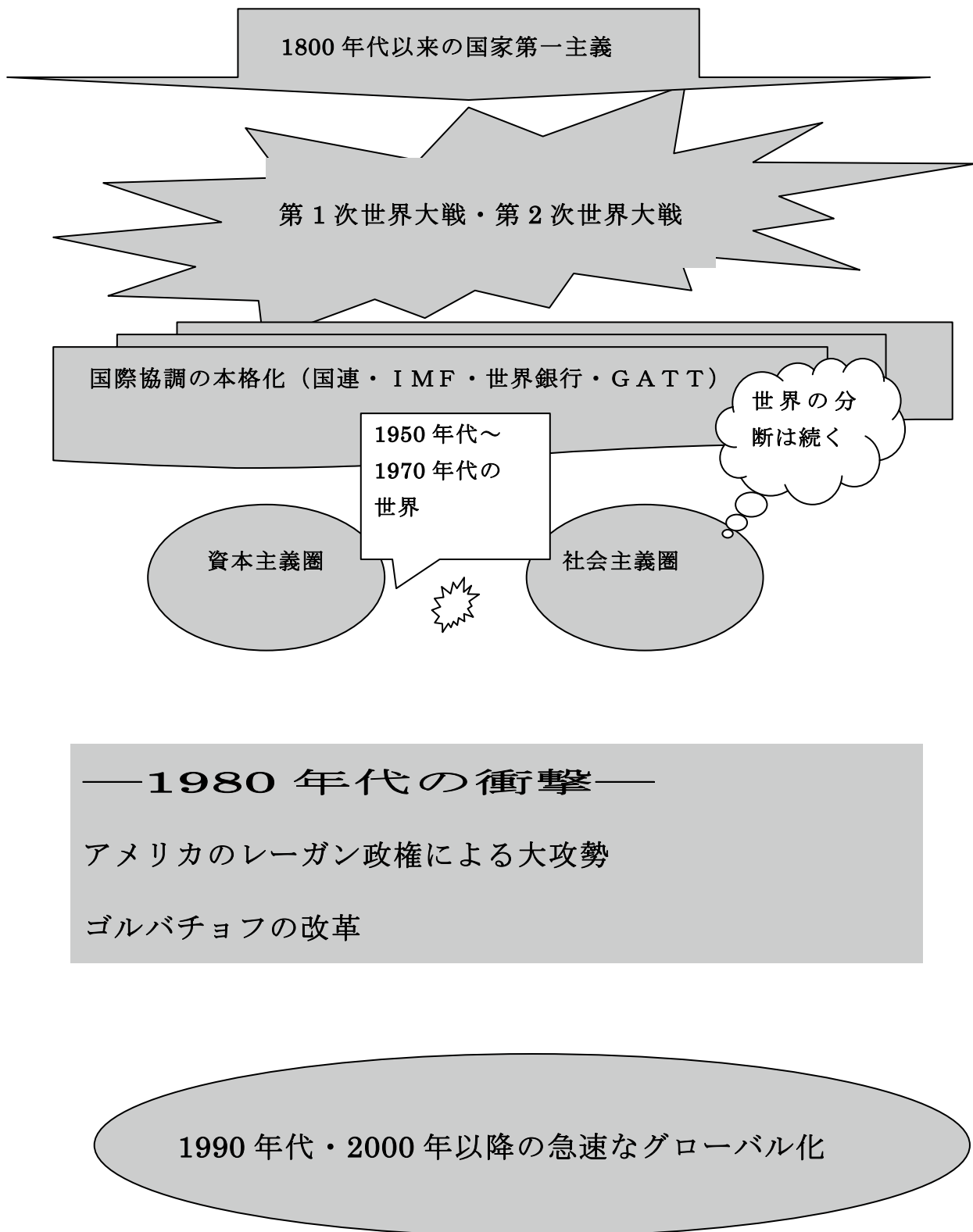


表 1：グローバリゼーション関係年表

年代	歴史的事項
1800 年代	国家 (Nation-state) の確立と拡大の時代 「国家第一主義 (State First) ないし国家主義」
1914 年～18 年	第 1 次世界大戦 (国家主義の悲劇)
1939 年～45 年	第 2 次世界大戦 (国家主義の悲劇)
1940 年代後半 1950 年代 1960 年代 1970 年代	—国家主義の悲劇の反省から国際協調主義へ— < 国際協調主義を進める制度の確立 > ① 国際連合 (UN) ② 国際通貨基金 (IMF) ③ 世界銀行 (The World Bank) ④ 関税と貿易に関する一般協定 (GATT) ↓ それでも世界の基調は「分断」 「西側陣営 (自由主義・民主主義・資本主義圏) V S 東側陣営 (社会主義・計画経済圏)」 という対抗軸
1980 年代	本格的なグローバル化への突破口が開かれた 10 年
1981 年	アメリカでレーガン政権の登場 「力による平和 (Peace through Strength)」戦略 軍事力、経済力、パワーで、東側陣営を圧倒
1985 年	ソ連のゴルバチョフが最高指導者に就任 自由度を許容した国内政策・対外政策 ↓ 東側陣営の溶解ないし崩壊へ
1989 年	ベルリンの壁崩壊
1991 年	ソビエト連邦の崩壊
1990 年代後半 2000 年代	グローバル化 (グローバル資本主義) の急速な発展

1.3 グローバリゼーションの恩恵と多様な次元

グローバリゼーションは、世界レベルで、さまざまな恩恵をもたらすことになった。先ず、経済的な視点から言えば、グローバリゼーションは、確実に世界レベルで経済規模を拡大させてきた。例えば、1989 年約 2000 兆円であった世界 GDP は、2009 年約 6000 兆円と、グローバル化の本格的進展のたった 20 年間で、世界 GDP が 3 倍に拡大した。世界レベルで、グローバリゼーションは、富を増やして行くことに成功している。

グローバリゼーションは、FTA の拡大に象徴的なように、世界レベルで自由貿易を活発にし、人々の日常生活に、世界中の商品を届け、全般的にその価格を下落させてきた。

インターネットや衛星テレビの普及によって、人々が海外の情報とのコンタクトをとることを可能にしてきた。

さらに、ジェット旅客機の拡大、航空会社間競争の活発化、出入国管理の簡素化・迅速化等によって、海外渡航の拡大を実現し、世界中の人々が、直接的に出会う機会を増大させてきた。

総じて、グローバリゼーションの恩恵は莫大であり、このような恩恵を考えても、グローバリゼーションは、効果的な調整過程を経ながら、受け入れていくべき時代の潮流と考える。

グローバリゼーションの多様な次元については、以下のように整理した。

即ち、第 1 に、エコノミック・グローバリゼーション（経済的地球一体化）。輸出入や直接投資、雇用等多様な次元での地球一体化である。TPP もエコノミック・グローバリゼーションの中で、起きている現象であると言える。

第 2 に、インフォメーションリレイティド・グローバリゼーション（情報関係の地球一体化）。インターネットや衛星放送、また最近の Face book などに象徴的な、世界的レベルでの情報共有としての、インフォメーションリレイティド・グローバリゼーションである。

第 3 に、カルチャラル・グローバリゼーション。世界中の人が、世界中の多様な文化、ファッション、アート、音楽などの文化を知り、コンタクトをとれるようになる文化的なグローバル化である。

第 4 に、ダイレクト・エンカウンター・グローバリゼーション。世界中の人がボーダーを越え、直接、交流していくことになるのが、ダイレクト・エンカウンター・グローバリゼーションである。国民意識から世界市民意識が生まれる可能性が出てきている。

第 5 に、ポリティカル・グローバリゼーション（政治的地球一体化）。国連や G20、EU の諸活動のような世界一体的な政治である。

表 2：グローバリゼーションの多様な次元

グローバリゼーション	エコノミック・グローバリゼーション (経済的地球一体化)	世界中の商品、資本、店、会社、工場の相互交流が進む経済的なグローバル化
	インフォメーションリレイティド・グローバリゼーション (情報関係の地球一体化)	世界中の情報が衛星テレビ、インターネット等を通じて、伝播され、またリアルタイムで、世界中の人が、同時に共通の情報にコンタクトできるようなる情報面でのグローバル化
	カルチャラル・グローバリゼーション	世界中の人が、世界中の多様な文化、ファッション、アート、音楽などの文化を知り、コンタクトをとれるようになる文化的なグローバル化
	ダイレクト・エンカウンター・グローバリゼーション	世界中の人がボーダーを越え、直接、交流していくことになるダイレクト・エンカウンター・グローバリゼーション。国民意識から世界市民意識が生まれる可能性がある。
	ポリティカル・グローバリゼーション (政治的地球一体化)	ウェストファリア条約以来の国民国家を国際政治の基本単位とする状態から、G20 に象徴されるような多数の国家間での活発な政策調整等の制度が機能していく政治的なグローバル化。国家が連合して「国家連合」を形成していくトレンドも進んでいる。事実、ヨーロッパはEUという国家連合を形成し、EU大統領という国家連合の指導者を選出するまでになっている。

1.4 グローバリゼーションの諸問題とグラスルーツグローバリゼーションの重要性

私達はグローバリゼーションの高度化はさまざまな問題を引き起こすことにもなっているという一点を、決して見逃してはならないということも学習した。

つまり、グローバリゼーションの急速な進展と共に、世界各地で相互理解の欠如、社会的調整の失敗から、地域紛争、動乱、戦争、宗教間対立、民族間対立、経済摩擦、経済格差など、深刻な問題が多発している。

グローバリゼーションは、一步誤ると、大規模戦争すら起こしかねない要素をはらんでいる。

—グローバリゼーションが引き起こす深刻な諸問題—

しかし！

グローバル化はさまざまな問題を引き起こすことにもなっている

- ×各地での相互理解の欠如
- ×地域紛争、動乱、戦争
- ×宗教間対立、民族間対立
- ×経済摩擦、経済格差

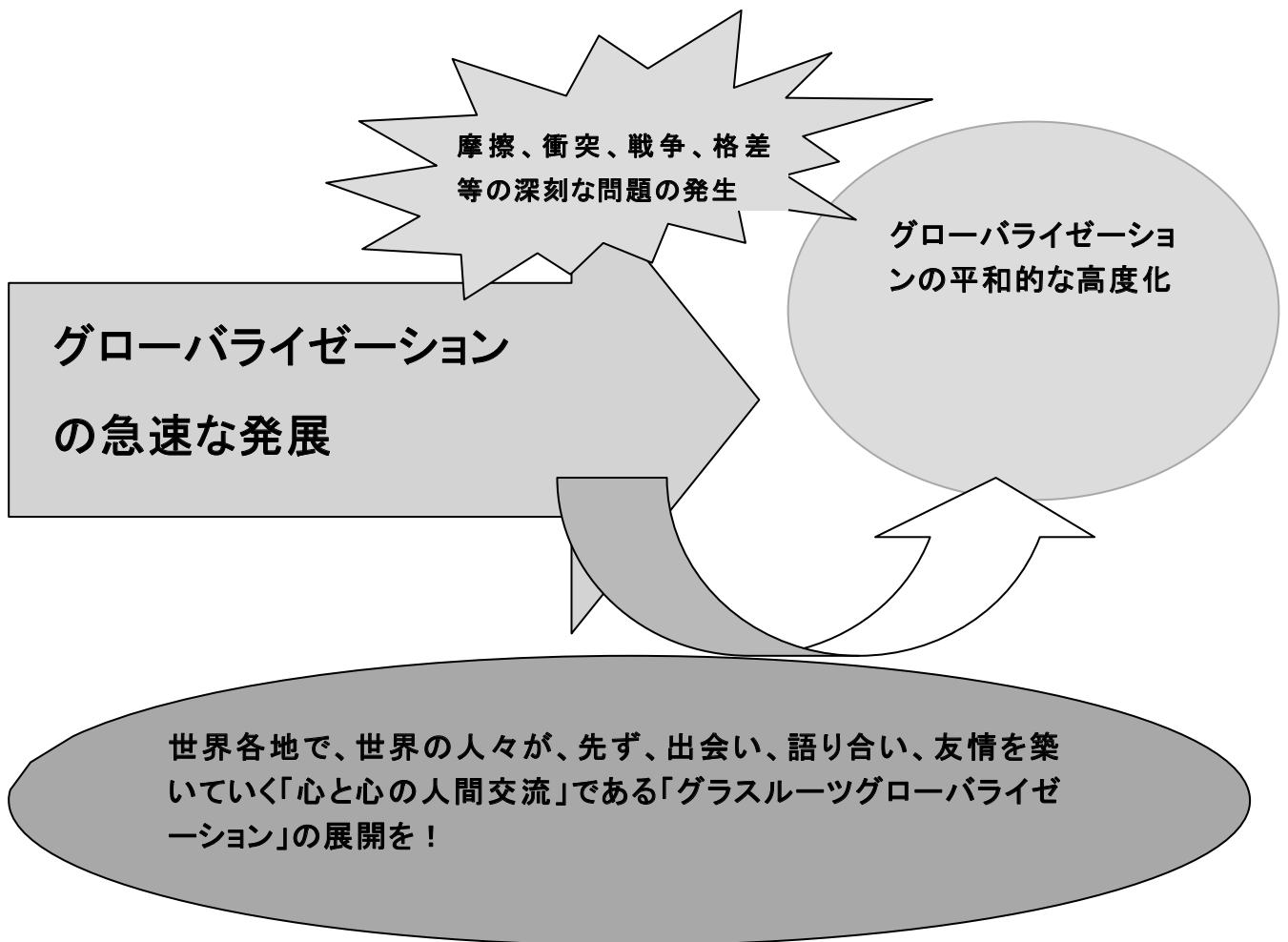
：

世界の全ての人々には家族があり、友人がいる。世界の人々は誰も、紛争、衝突、まして、戦争など、絶対に望んでいない。「世界の人々が、グローバル化の中で、平和に人生を送るようになるには、どうしたらよいか」を真剣に考えるべきである。

私達は、迂遠なようだが、根本的には、先ず、世界の人々が、世界の各地で、出会い、語り合い、友情を築いていくことが、最も大切であり、世界の各地で、グラスルーツの、草の根の、国際交流、人間交流、人間対話を、展開していくことが、グローバル化を平和的にランディングさせていくベースとなると考える。

世界各地での、草の根の人間交流である、「グラスルーツグローバリゼーション」こそ、グローバリゼーションの諸問題を乗り越え、グローバリゼーションを平和的に高度化する上での、底流を創造するものであると確信する。

図 3 : グローバリゼーションの発展・諸問題とグラスルーツグローバリゼーションの重要性



—グローバル化について学習するゼミ生—



2. Invite

グラスルーツグローバルイゼーションの活動として、ゼミに国際交流で活躍する方や、外国の方を招待し、対話・交流し、さまざまなことを学びました。以下はその時の対話の概略である。

2. 1 長岡市国際交流センタースタッフ十見智子氏を招待

5月長岡市国際交流センタースタッフの十見智子氏をゼミに招待し、意見交換を行った。

学生：今日は、本格的な国際派の女性リーダーをお招きできて、うれしく思います。

よろしくをお願いします。

十見氏：こちらこそ、よろしくをお願いします。

何でも聞いて下さい。いつの時代も次に続く、若い人の活躍が大切です。

地域や世界も、皆さんにかかっています。

学生：十見さんは中学生の時から、アメリカに行かれたと、聞きましたが。

その時は、一体、どのようなことを、実感されましたか？

十見氏：とても良い体験でした。アメリカのフォートワースでした。

一番印象的だったのは、アメリカというのは、人と違ったことをすることを心から受け入れる、包容力があるカルチャーということを実感したことです。

日本では協調性が重んじられる傾向がありますが、アメリカでは、人と違った考え方や人と違った振る舞い、行動、そして人と違った生き方が、重んじられる傾向がありました。

本当の「個性」が許容される雰囲気なんですね。

個性的な生き方を、体得したのは、大きかったと思います。

でも、日本に帰国して、「人と違った考え方、行動、生き方」みたいなことを、実行したら、結局、あまり受け入れられない雰囲気があったんです。

アメリカと日本の一番の違いでしたね。

学生：とても、重要な指摘ですよ。

私達の中にも、アメリカに実際に行った者が何人かいるから、その実感は、よく理解できるんじゃないかなって、思います。

アメリカには、先ず、圧倒的な、「自由」の雰囲気、ベースが存在する。おそらく他のどこの国家も確立してないカルチャーだと、思います。

建国の歴史あたりから、淵源がある気がします。

つまり、ヨーロッパの圧政から逃れ、自由の地を求めて、アメリカは建国された。

その辺の歴史は、ボストンあたりに行くと、よく分かるんですが。

とにかく、アメリカというのは、先ず「自由」の国で、Liberty が重要だということになっている。

「自由」という価値観は、日本人には想像できないくらい、大きい。

自由という価値観、つまり、「人に過度に迷惑をかけない限り、考え方、行動、生き方などは、全て個人はその自由意思によって、決めることができる」という価値観です。

そのことが、「人間・個人の潜在力、可能性を、最大限に解放し、地域、社会、国家を、発展させ、豊かにする」という、考え方ですね。

「自由」という価値観から、自由主義経済・自由市場競争経済・資本主義経済も出てくる。

政府の規制を、自由への干渉と考える。「小さな限定した政府 (Limited Government)」という考え方も、「自由」という価値観から出てくるんだと、考えます。

「小さな限定した政府」なんだから、税金もできるだけ、安くしようとする。

その辺のところは、ちょっと驚くことがたくさんありますよね。

成熟先進国で福祉なんかには予算がかかるはずなのに、共和党政権なんか、ときどき、度肝を抜かれるような大減税を、断行する。

1980年代のレーガン政権。所得税の税率を、半分くらいに下落させた。

2001年以降のブッシュ政権。100兆円の減税を、断行した。

このような政策の根っこも、「自由」という価値観だと、思います。

ところで、今の地球広場のお仕事につかれたきっかけは、どのようなことだったんですか。

十見氏：中学生の頃から、アメリカに行って、ずっと国際交流に興味をもっていました。大学生の時は、イタリアなんかにも渡航して、世界の広さ、文化の多様性の深さを、体感したんです。将来、そういった文化の多様性を感じることでできる仕事に就きたいと思い、英語も勉強していました。実際、今、「地球広場」で仕事をしていて、世界から来られた方の相談業務などに携わり、力になれたときは、心からよかったと思うんです。外国の方が、元気になって、明るいお顔になるのを見て、私も幸せな気持ちになります。

学生：今のお話にとっても、感動しました。

十見さんは、心がとても美しいと、思います。

人の助けになることに、そこまで使命を感じておられるのは、偉大だと思います。

「人間のなしうることで、最も偉大なことは、人に光をあたえることだ」という、南米の革命家、シモン＝ボリバルの言葉がありますが、十見さんは、そのような生き方をされているんですね。

私たちも、十見さんのように、人につくせる立派な人間にならないと、思いました。

「人に尽くすことの重要性」は、もっともっと、教育の中で、打ち込まれる必要があると思います。

「人間は人間の中でしか大きくなれない。人を励まし、人の力になる中でこそ、自己の人間性も磨かれる」ということを、体得しなければなりません。

人間の生き方の根本中の根本だと、思うんです。

社会的に偉くなるとか、金をもうけるとか、そういうことを習うことも、もちろん必要だと思うんですが、「人間の生き方」・「使命」という、一点が、体得されなければ、何のために偉くなって、金持ちになるのか、ただ自分の欲のためなのかってことになる。そこには、真の心の充実感みたいなものは、ないんじゃないかなって、思うんです。英語でいう、Mission（使命）みたいなことの大切さを、よくよく、若い時に、体得していかなければならないと、思います。

ところで、「地球広場」では、具体的に、どのようなイベントなんかをされているんですか？

十見氏：先ず、地球広場では、外国籍市民の方への日本語学習の場を提供しています。

また、定期的に、世界各地からの方、例えば、ベトナム、マレーシア、モンゴル、ブータンといった国から来られている方に、その国の文化を紹介してもらうイベントも開催しています。

民謡流しや運動会などのイベントを開催し、外国籍市民の方々に日本の文化を体験してもらうというようなことも行っています。

学生：できるだけ多く、外国の方と、直接会ったりして、対話、交流しているから、十見さんのお話には、深みや魅力があるし、人間性のスケールの大きさが、実感できるんですね。

十見氏：ありがとうございます。

異文化とのコンタクトは、とても大切だと思います。

文化というのは、実際にふれてみないと分からない。

最初から、極端な先入観で見て、判断するから、誤解が生じ敵意なんか生まれる。知ることが大切なんです。

私も、イタリア・リトアニア・ラトビアなどに、渡航していますが、どこへ行っても、形は違えどもそれぞれの素晴らしい文化があるんです。ぜひ、皆さんもこれからどんどん世界の文化とコンタクトをとって、そういった「違い」をたくさん体験していただきたいと思います。

学生：日本なんかでは、キリスト教圏の文化は、例えば、クリスマスとか、教会、チャペルなんか、そういった文化は、皆、知って、違和感がない。

でも、おそらく、多くの方が、イスラム圏の文化、ヒンズー教圏の文化、ロシア圏の文化なんかは、まだ、十分、知っていないと思う。そこに、相互理解の欠如が生じてしまう。

十見さんが、実践されてこられたように、私たちも先入観を持たずに、どんどん外国の方と、対話し、交流し、異文化にふれて、自分たちの視野を広げ、成長して参りたいと思います。

今日は貴重なご指導を、ありがとうございました。

長岡市国際交流センター 十見智子氏



2. 2 メキシコ人留学生イスラエル・エダンド・レンド・ビロン氏を招待

7月に長岡技術科学大学に在籍のメキシコ人留学生、イスラエル・エダンド・レンド・ビロン (Israel Eduardo Rendon Villon) 氏をゼミに招待して意見交換を行った。

学生： こんにちは。今日は宜しくお願いします。

イスラエル氏： よろしく。

学生： メキシコの何処から来たのですか？

イスラエル氏： モントレイから来ました。

学生： 4月に日本に来ていつから日本語は勉強しているのですか？

イスラエル氏： 2年前からです。

学生： 日本語を勉強するきっかけは何だったんですか？

イスラエル氏： 日本で勉強したかったからです。

学生： なるほど。今何年生ですか？

イスラエル氏： 3年生です。

学生： えっと、大学院の3年生？

イスラエル氏： 学部の3年生です。

学生： 今、研究や実験はしてますか？

イスラエル氏：まだ研究はやっていない。

講義だけです。

4年生になったら、研究・実験を始める予定です。

学生：メキシコに帰って就職を希望していますか？

イスラエル氏：まだ帰るかは分かりませんが、先ず、学部が終わったら、大学院のマスターコースに行くかもしれません。かなり、先には、やっぱり、メキシコに帰ってから就職をしたいです。

メキシコの日本の会社なんかで働けたら、よいですね。

学生：イスラエルさんは長岡で、教会に行ってるんですか？

イスラエル氏：はい。

学生：毎週ですか？

イスラエル氏：はい毎週。日曜日に。

学生：メキシコのモントレイではほとんどの人は日曜日に教会に行くんですか。

イスラエル氏：そうです。

学生：本当に毎週？

イスラエル氏：はい。

学生：モントレイでは教会に行くと何時間くらい居ますか？

イスラエル氏：2時間位です。

学生：ずっと居るんですか？

イスラエル氏：はい。毎回お祈りが終わったらみんなで一緒にご飯を食べます。

学生：食事もするんですか？

イスラエル氏：はい。

学生：みんなで？

イスラエル氏：はい。

メキシコでは、他の町でも、同じ事をしますよ。

学生：みんな朝教会に行って？

日曜日でしょ？

教会に2時間位居て、食事もするんですね。みんなでね。

イスラエル氏：はい。

メキシコは毎週の日曜日教会に、家族や友人などが、皆集まって料理を作ったりして、交流するんです。

学生：文化の違いに、驚きました。

日本なら、若い人は、日曜なら、疲れて寝ている人も多いと思いますが。やっぱり、宗教って大きいんですね。

日本人は、どうも、宗教に鈍感で、宗教の大きさが理解できない人が多い。私達の中にも、アメリカに行った人もいますが、ニューヨークだって、とても教会が、多かった。

多くの人が祈ってました。

宗教は、世界を理解する必須項目ですよ。

ところで、今の大学には、他にメキシコの方は、居ますか？

イスラエル氏：います。

学生：何人位？

イスラエル氏：15人位です。

学生：メキシコのモントレイの人口はどれくらいですか？

イスラエル氏：モントレイの人口は200万人です。

学生：かなり、多いですね。

日本の食べ物とかでびっくりした物とか味が苦手な物とかはありますか？

イスラエル氏：メキシコ人は納豆がにがてですね。

粘々がにがてです。

学生：寿司とかお刺身は食べた事がありますか？

イスラエル氏：美味しい。去年来た時、日本に来た時、刺身とかお寿司を初めて食べました。

最初は、好きじゃなかったけど、だんだん好きになりました。

今は、大好きになりました。

理由は分からない。

学生：日本の料理ってそうだよな？

どんどん好きになる人が多いみたいだよな？

学生：長岡に来て、風景はどうですか？

イスラエル氏：景色とかは、最高です。美しいです。

メキシコの僕の街には、良い景色が、余り無いんです。

学生：やっぱ、長岡、新潟は、美しいですよな。

海外へ渡航すると、新潟県の美しさが、分かりますよね。

比較できるから、分かるんでしょうけど。

イスラエル氏：本当に美しいです。

学生：新潟は、世界的に美しいエリアだと、思います。

冬は、寒いですけど。

そう言えば、今年の4月に来たんでしたっけ？

学生：今年の4月です。

学生：雪は見てないですか？

イスラエル氏：少し見ました。

長岡に来た時、道に残っている雪を見ました。

学生：見て驚きました？

雪は見たことが無いんですよ、メキシコでは？

イスラエル氏：メキシコでは、雪は見たことはありません。

学生：でも、メキシコでも、雪は降らないが降りそうなくらい寒いと言っていましたよね？

イスラエル氏：はいそうなんです。でも、夏は暑いんです。

学生：夏は、30度位から、40度位まで上がるんですか？

イスラエル氏：はい。夏は、朝起きると喉が乾燥して飲み物が欲しくなります。

特に、南メキシコ、モントレイなんかは、夏は、とても暑いんです。

天気の変化は、激しい。
雨がいきなり、降るときもある。
40分ほど、雨が降って、また、暑くなる。

学生 : メキシコは、治安はどうですかね？

イスラエル氏 : 特に、メキシコの北は、危ないんです。

学生 : マフィアですか？
テロリストですか？
ピストルはみんな持っているんですか？

イスラエル氏 : はい。

持っている人もいると、思う。

学生 : メキシコから、南下すると、ホンジュラス・ガテマラ・ニカラグア・エルサルバドルとか、南米に入れば、コロンビアとか、たくさん国がある。
経済成長する潜在的条件は、多いと思うけど、一番の問題は“治安”だと、習いました。
治安が悪かったり、内乱、クーデターとかが、多発すれば、安定せず、国家は、発展しないですよ。
治安の安定は、政治的安定につながると思うし、国にとって最も重要なことですよ。
ところで、メキシコって日本と同じくらいの時にオリンピックやったんだよね？

イスラエル氏 : そうです、1968年に、メキシコオリンピックがありました。

学生 : 1964年の東京オリンピックに、近い頃ですね。
日本は、治安の安定が、あったから、経済活動も順調に進み、1960年代なんか、急発展できた。
メキシコでは、警察とかは強いですか？

イスラエル氏 : 強いけど、十分ではないと、思う。

学生 : 十分ではない？

イスラエル氏 : 特に、北の方では、治安が悪く、警察力は、不十分です。

学生 : イスラエルさんは、メキシコの南の、ホンジュラスとか、ニカラグアには、行った事がありますか？

イスラエル氏 : 行ったことはありません。

ブラジルとかアルゼンチンとかペルーは行きますけど、中米はないです。

学生 : 日本に来て、興味をもった趣味みたいなものはありますか？
ゲームとか、アニメとか。

イスラエル氏 : メキシコに居た時、アニメには、興味を余り持っていませんでしたが、日本に来て、少しふれてみて、漫画・ゲームなんか、興味を少し持ち始めました。

学生 : メキシコの物価は、どの位ですか？
例えば、リンゴ一個の、価格とか。

イスラエル氏 : メキシコの果物は、日本より安いです。

学生 : 半分位の安さ？
イスラエル氏 : 多分。半値以下だと、思う。
学生 : 日本では、大体、リンゴは、一個 100 円位ですよ。
イスラエル氏 : メキシコは 5 個買える。
学生 : 5 個ですか？一個 20 円くらいなんですね。
それでは、1 ヶ月メキシコだと、どれくらいで生活できますか？
アパートの家賃なんかもいれて。
イスラエル氏 : 300 ドルくらいです。
学生 : 3 万円くらいで、生活できるんですか。
ところで、メキシコの方は超大国アメリカを、どう見てるのですか？
イスラエル氏 : 色々な意見があると思うけど、アメリカは、そんなに優しくないようなイメージがあるんじゃないかな。
学生 : アメリカとメキシコは、基本的には友好関係があると思いますが、完璧な同盟関係ということでもない。
メキシコからアメリカへは、簡単に入れないんですよね？
イスラエル氏 : 米国への入国は、簡単ではない。難しいです。
学生 : アメリカは、閉鎖的だって、思うんですかね。
イスラエル氏 : そうかもしれません。
学生 : メキシコからアメリカに行く人は、多くいますよね？
イスラエル氏 : 居ます。
でも、入国は難しい。
学生 : メキシコの教育の特徴は、どのようなところにありますか？
イスラエル氏 : メキシコでは、小学校の時、スペイン語と数学と英語も勉強します。
それから、中学校でも、スペイン語と英語を勉強します。
高校では、科学技術・数学なんかが、重視される。
大学は、土木工学・機械工学なんかが、人気がある。
学生 : 小学校からの教育がすごいなあと思った。
特に、英語教育がすごいですね。
イスラエル氏 : 私は 7 歳の時に英語の勉強を始めました。
そして小学校や高校でも英語の勉強をしたから英語が話せる。
メキシコではそれが、普通なんですよ。
学生 : メキシコでは、母国語であるスペイン語と英語ができるのは当たり前ってことになるんですか？
イスラエル氏 : はいそうなんです。
学生 : 一番、得意な科目はなんでしたか？
イスラエル氏 : 多分数学です。
学生 : 数学ですか？
日本に来て見て色々と日本人と接する事もあると思うのですが、日本人の良い所と悪い所で思い当たることはありますか？
イスラエル氏 : 良い質問だと思います。

良い所は例えばお店行く時、そのお店で働いている人は、本当に優しいと
思いました。

メキシコでは、お店のスタッフは、優しくないのが、普通です。

日本に来た時、本当にびっくりしたんですよ。

学生 : そのことは、よく聞きますよね。

日本の接客サービスのレベルは、高い方だって。

「接客サービス」は、それ自体、ビジネス上価値が絶大ですよ。

スタッフの、着るもの、身なり。

外見、お顔、スタイル。

目線。

客の目を、明るく、やさしく、輝いた目で、見るのが、一流ですよ。

笑顔を向けることや、聴き取りやすい、明るく、やさしい声で、対応す
ること。

礼儀正しい中にも、気さくで、オープンな、言葉遣い。身のこなし方。

そんなスタッフの方と接すると、すごく快適な、陶酔感のような気分があ
りますよね。

そこが、価値を生むんでしょうけど。

アメリカや、海外のホテルなんかに行くと、日本以上かなって思うスタッ
フもいますけど。

ところで、日本の悪い所はないですか？

イスラエル氏 : 悪い所は、特に無いですが、英語が、もう少し話せると、いいですね。

日本でも、英語の教育は、やっていますよね？

学生 : 十分あります。

小中高と授業で、英語を教わったが、どうしても話せない。

学生 : メキシコにも、中国の方が、進出していると、思いますが、メキシコでは、
中国のイメージはどうですか？

イスラエル氏 : 中国の方のイメージは、いつも働いている、一生懸命働いている人という
イメージです。

学生 : メキシコ人はそうじゃないですか？

イスラエル氏 : 一生懸命働きます。

しかし、どうも、おおらかと言うか、ルーズというか。

メキシコ人はいつも会議とか講義に遅れます。

学生 : イスラエルさんの家族は何人ですか？

イスラエル氏 : 5人家族です。

学生 : それ位の家族が、メキシコでは普通なんですか？

イスラエル氏 : はい。

昔は、メキシコの家族の数はもっと大きかったけど、最近は小さくなりました。

学生 : もし、メキシコに自分達が旅行に行くとしたらおすすめのところとかはあり
ますか？

イスラエル氏：メキシコ市とかユカタン半島へ行った方が良いと思います。

特に、ユカタンには、マヤ文化があります。

マヤのピラミッドがある。

学生：今ピラミッドの話が出たんですが、エジプトだと王の墓ということなんですけどメキシコにピラミッドが有ったって事は、王様が、キングが、いたって事になるんですか？

イスラエル氏：そうです。昔、王様が居て、王様がピラミッドを作った。けど、スペインがメキシコに来たので、その文化が無くなりました。今、ピラミッドしかない。

学生：スペインが植民地化したわけですね。

メキシコには、マヤ文化みたいな、エジプトと並ぶくらいの文明圏があったんですね。

古代から優秀だったんですね。

スペインが入ってきて、スペインが持ち込んだものは、やはり宗教ですか？カトリックが中心ですか。

イスラエル氏：はい。

学生：キリスト教のプロテスタントはないんですか？

イスラエル氏：現在は、プロテスタントとカトリックの両方いますよ。

学生：そうですか。

お話を伺えば、何うほど、メキシコへの興味が、どんどんわいてきます。今日はありがとうございました。

ぜひ、将来、メキシコに行ってみます。



2. 3 アガペー聖書バプテスト教会宣教師ウィリアム・ラッセル・スタンフォード氏を招待

7月アガペー聖書バプテスト教会宣教師ウィリアム・ラッセル・スタンフォード氏を招待し、意見交換を行った。

学生： 今日、よろしくお願いします。

スタンフォード氏： 何でも、聞いて下さい。

学生： スタンフォードさんは、若い時、米国の海兵隊にいたそうですが、海兵隊に入った切っ掛けはなんだったんですか？

スタンフォード氏： そうだね。高校を卒業する頃、どうしようかと、いろいろ考えてね。両親なんかとも、相談した。若い時は、先ず、訓練しようと考えて、入隊を決意しました。

学生： 海兵隊での訓練はものすごいと、よく聞きますが、実際どうでしたか？

スタンフォード氏： すさまじい猛特訓の連続だったね。

最初の13週間の基礎訓練があるんだが、体力・精神力の限界まで鍛えられる。

あの時の鍛えがあるから、今があると確信できる。

体力的にも、精神的にも旺盛な若い時は、「訓練を受ける、鍛えること」が、一番大切だよ。

若い時に、絶対に負けない自分をつくるんだ。

学生： 私達も、スタンフォードさんが海兵隊に入隊した頃の年なんですけど、訓練の大切さを、痛感しています。

日本では、若い人の多くが、弱っています。

いろいろ理由はあるんだろうけれど、現実として、20代くらいになっても、引きこもり、ニート、パラサイトフリーターみたいに、自分で独立できない若者がものすごく多い。

そういった若者は、何百万人、若者の4人に1人で、国家的問題だと、言う人もいます。

スタンフォード氏： そうらしいね。日本の若者の現状は、よく聞いている。

学生： どうしてこうなってしまったんでしょうか？

アメリカの若者と、日本の若者、育て方に違いがありますか？

スタンフォード氏： 先ずね、高校を卒業したら、親元を出るのが、アメリカのカルチャーだよ。

びっくりするのは、日本だと高校を卒業しても、場合によっては、大学を卒業しても、会社に入っても、親元にいるでしょう。

あれじゃ、独立心は、生まれにくいよ。

だって、もし学校やめた、会社やめたっていっても、親元にいるんだから、住む所、食べ物、風呂も大丈夫なんですよ。

危機感、闘争心がなくなるに決まってる。

学生： 確かに、学校を卒業しても、会社に入っても、親元にいる若者が多い
ですよ。

人間は、依存できる環境にいたら、弱くなる。

環境はこわい。

その他、日本についてどう思いますか？

スタンフォード氏：日本は、変化できないよね。

変化できないというのが、日本の最大の欠点だよ。

アメリカを考えてみてくれ。

アメリカには、大統領制がある。

4年に1回、大統領選挙やるでしょう。

あれで何か国家的問題、困難があっても、変えることができるんだ。

だから、基本的に安心なんだ。

アメリカ大統領は、ポリティカル・アポインティって言うんだけど、
米国政府の上層部、5000人くらいを変える。

日本だと、首相はよく変わるけど、100人くらいですか、政府上層部
が変化するのは？

学生： 確かに、日本はなかなか変化できないんです。

深刻かもしれない。

日本にも、立派な見識や、力量のある人はいる。

政府上層部の交替制度が問題で、力が発揮できないじゃないかと、最近
思うんです。

世界情勢の変化に、もう合っていないんじゃないかって。

アメリカみたいな、トップが一定期間、「任期付き独裁者？」みたいに、
変えるような制度を、日本はつくれないのかって思う人は多いんじゃない
かって、考えたりするんです。

スタンフォード氏：そうだね。皆は、日本はその他は、どこが問題だと、認識してる？

学生： 人口問題が深刻です。

急速な少子高齢化で、日本の人口ピラミッドは、もう逆三角形になっ
てきている。

スタンフォード氏：日本の65才以上人口は、どれくらいだっけ？

学生： 約23%です。新潟県は、約25%。

4人に1人が、高齢者です。

スタンフォード氏：そうか、高い数値だね。

その数値は、確か世界一だったね。

学生： お年寄り、絶対に守らなければならない。

当然のことです。

高齢者に、自分で働いて生きてくれみたいなことは、成熟先進国では、
ありえない。

国家的な福祉で、カバーするしかない。

スタンフォード氏：そうだね。日本の福祉は、進んでいると思うよ。

学生： 問題は現役世代の負担です。
大学を卒業して少し偉くなって、月給が 20 万円。
でも、住民税・所得税・社会保険料で、5 万円程消える。
残るのは、15 万円程です。
所得の 25%、4 分の 1 を出さないと、福祉制度を支えられない面もあります。
この負担、これから、もっと増えるんじゃないかって。
つまり、月給 20 万円の中から、7 万円、8 万円って、なくなるんじゃないかって。

スタンフォード氏：それは、大変だ。
アメリカは、「小さな政府」を主張するリーダーも多い。
政府は、税金をもらったら、賢くつかってもらわないとね。

学生： そうなんです。賢明に使ってくれて信用があれば、良い。
確かデンマークですか、所得税が最低で 50%程で、稼いだお金の半分以上が、徴収される。
でも、それは民主国家の選挙で、政策を長年決めてきた結果で、国民が支持している。
国民の満足度も、日本よりはるかに、高い。
税金の使い方が賢明で、徴収されても、生活が今も将来も、困らないから、良いという意識だと、思います。
「お金を政府に預ける・貯金する」という信用があるんです。

スタンフォード氏：将来の日本は、ヨーロッパ型がよいのかな。
アメリカは、生粋の自由主義社会だから、ヨーロッパみたいな、社会民主主義は、どうかな。

学生： ところで、アメリカの大統領で、尊敬する人は誰ですか？

スタンフォード氏：良い質問だね。
1980 年代のレーガン大統領かな。
一番、国家や世界のことを、真剣勝負で考え、実行したトップリーダーだった。
私が、海兵隊にいたときの、大統領だった。
軍の仲間も、皆、レーガンが、好きだったよ。

学生： 1980 年代は、対ソ連の強硬戦略で、大変じゃなかったですか？

スタンフォード氏：よく知ってるね。
そうだったよ。
あれは、1983 年の夏だった。
当時、アンドロポフ政権の下にあったソ連の軍が、アメリカのアラスカから飛びたった大韓航空機を撃墜したんだ。
びっくりしたよ。
レーガン政権は、その前から、ソ連を「悪の帝国」とか言って、強い態度に出ていたでしょう。

だから、あの事件の時は、即刻、海兵隊にも臨戦態勢をとるように、指示が出てね。

いよいよ実戦かと、思って緊張したよ。

学生： グローバル化の発展過程の学習を、ゼミでもかなりやって、1980年代のレーガン政権については、勉強しました。

「強いアメリカ」を掲げて登場したんですね。

スタンフォード氏： そうだった。

1981年が政権発足だった。

ちょうど、私が、海兵隊に入る頃と、時代が一致するんだ。

学生： レーガンや、国防長官のワインバーガーは、急速な、質的、量的な軍事拡大を断行したと、習いましたが。

スタンフォード氏： 軍にいた者にとっては、ありがたいことだったんじゃないかな。

国防の強化。

国を考えてのことだったと、思うよ。

学生： その辺の感覚が、どうも日本にいと、違和感があるんですね。

スタンフォード氏： そうだろうね。日本は、平和指向の国家だからね。

学生： アメリカに実際に行ったりして、よく分かるようになったんですが、アメリカという国家は、かなり、他国と違いますよね。

つまり、全世界に、責任感を持っているというか、世界全体を、マネジメントしないとイケないっていうような、使命・役割があると、思うし、その一点を多くの国民がよく認識している。

スタンフォード氏： そうだろうね。

結構、世界各地で、介入するよね。

学生： 自由主義・民主主義という価値観を、世界に広めようとしているというのが、底流にあるんですか。

スタンフォード氏： そうだろうね。

自由・民主主義という価値観は、アメリカ人には、かなり大きい、貴重なものだからね。

学生： 1980年代のレーガン政権もそうだったのですか。

世界の多くが、レーガンの強硬路線はやりすぎじゃないかって、考えたかもしれない。

でも、トップリーダーの確信というか、理念、戦略への確信ですか、ぶれがなかった。1989年には、東ヨーロッパをはじめ、全世界的な民主化が起こり、ベルリンの壁が崩壊し、1991年には、ソ連までもが崩壊した。

レーガンの戦略は、現実化した。

つくづく、リーダーシップとは、どうあるべきかを、考えさせられます。

国民や世界のことを思うことと、国民や世界の意見に単純に従うことは、違うんじゃないかって。

スタンフォード氏：そうだね。

リーダーには、戦略、確信がないとだめだね。

よく聞くことは、大切だけど。何が、正しいかは、分からない。

学生：現実だと思います。

現実の良い結果を現出させたのであれば、それは、過去、世論がどうだったとかは、度外視して、正しかったと、言ってよいんじゃないでしょうか。

世論に従っても、現実が、後に悲惨な状況になれば、間違ったことになる。

スタンフォード氏：皆も、未来の大切なリーダーだ。

これからも、よく勉強して、自分を鍛えて行ってほしい。

また、お会いしましょう。

学生：今日は、ありがとうございました。

アガペー聖書バプテスト教会 宣教師 ウィリアム・ラッセル・スタンフォード氏



3. Visit

3. 1 アメリカからの若者達との交流

6月長岡市国際交流センター「地球広場」で行なわれたアメリカのフォートワース市から来た高校生との交流会に参加した。

学生： ようこそ、日本へ。日本へは、はじめてですか？

アメリカ人高校生： はい、はじめてです。

学生： 日本の印象はどうですか？

アメリカ人高校生： 環境が良い。

とてもきれいです。

アメリカでは見れない風景に、感動しています。

それに、人々が親切です。

学生： 日本の若者は、どのように見えますか。

アメリカ人高校生： 若くというか、少し幼くみえます。

学生： 日本については、どんなことを勉強していますか？

アメリカ人高校生： 何ととっても、「マンガ」です。

日本の「マンガ」は、アメリカの若者には、人気があるんですよ。

学生： そうらしいですね。「マンガ」のどんなところが、魅力的ですか？

アメリカ人高校生： 「マンガ」は、一定のワクの中に、理想的な、究極的な、現象を描くでしょう。

芸術の一分野と、言ってよいと思います。

学生： 日本についてはその他、どんなことが、有名ですか？

アメリカ人高校生： 新幹線です。

ブリット・トレインと言って、大変有名ですよ。

長岡に来る時も、新幹線に乗れて、感動した。

学生： アメリカには、新幹線みたいなのは、ないですか？

アメリカ人高校生： ニューヨーク・ワシントンを結んでいるような、「アセラ」っていう高速鉄道があるようですが、日本の新幹線には、かなわないんじゃないかな。

学生： 日本にも、マンガ、新幹線など、日本人が認識していないすごいものがあるんですね。

アメリカ人高校生： たくさんあると思います。

携帯電話やクルマだって、すごい。

伝統的、歴史的なものは、もっとすごいと思うよ。

仏教・お寺・茶道・庭園・礼儀礼節・着物・サムライなど。

日本には、ものすごく偉大なものが、たくさんある。

グローバル化時代には、日本人として生まれたら、それらをよく認識して、世界に出てゆく過程で、アピールしていく必要があると思う。

つまり、「ルーツ」ですね。

自分のルーツへの認識が、しっかりしている人は、すごいよ。

学生： 貴重なことを、教えてくれてありがとう。

交流会では、個別の対話・交流の他にも、日本語レッスンを行いました。その中では、簡単な日本語の挨拶と、レストランでの会話の実演を行った。

最後に、日本の「桜の歌」を、歌いました。桜の歌を歌う中で、国籍や、民族性、人種性の差異やそれへの違和感など、全くなくなった。

フォートワースの高校生は皆、とてもフレンドリーで、オープンだった。交流した時にみた、皆の歓喜に満ちた、笑顔を忘れることはできない。同じ人間として、幸せに、生きていくべきであるということを感じた。

長岡とフォートワースが、「姉妹都市」を締結したのは、1987年である。締結後、青少年の教育交流を中心に、スポーツ・文化など、幅の広い分野で交流を展開してきた。

青少年教育交流など、長岡とフォートワースは友好関係を通じて、国際理解、世界平和に貢献したとして、高く評価され、ワシントンDCに本部のある国際姉妹都市協会の全米最優秀姉妹都市賞を2回受賞している。

政治的な首脳交流や経済的な連携交流も重要である。しかし最も重要なものは、民衆と民衆の交流、人間と人間の交流、心の交流の拡大こそが、世界平和の底流であることが実感できた。

—アメリカのフォートワース市からの若者達と交流—



3. 2 「長岡まつり前夜祭大民謡流し」への参加

8月長岡まつり前夜祭の大民謡流しに、長岡に住む世界各国の外国籍市民の方と一緒に参加した。

本番の1か月前から練習に参加して交流を深めてきた。長岡の民謡流しに参加するのが初めてということもあり、3種類の振り付けを覚えるのに、とても苦勞した。

本番では子供からお年寄りまで多くの人に参加してとても盛り上がり、1時間という時間があっという間に過ぎていきました。



3. 3 「王寺川国際稲刈り祭り」への参加

9月に王寺川集落で稲刈りの体験会が行われた。この体験会は、外国人の人たちに向けて企画されたイベントで、王子川集落の自治体と市民センターが連携して行ったイベントであった。

また、王子川集落の人たちにとっては、外国人の人たちに自分たちの集落のことを知ってもらいたいという意味もあったようである。

私達は、この体験会もグラスルーツグローバルイゼーションのコンセプトに非常に近い行事だと思い、参加した。

外国の方と、稲刈りという共同作業を行う中で、自然に、国籍・民族・人種の差異などを、超越して、同じ人間であるという、意識が心の底から、湧いてきた。

この体験会には、私たち以外にも、多くの若者が集まっていました。国際交流を地域単位で行うことが、その地域のアピールになりそれが若者を呼ぶ宣伝にもなり、若者たちを地域に呼び込むというメリットがあることも理解できた。

国際稲かり祭り交流会の様子



3. 4 「世界の仲間と運動会」への参加

10月長岡市国際交流センター「地球広場」主催の「世界の仲間と運動会」に参加した。最初、国籍・文化・言語も違うさまざまな外国人の方が、片言・覚えてたの日本語を駆使して受付を行っていた。

当日は天気もよく暑かったせいも有るが、給水所も設置されており水・麦茶・スポーツ飲料・ジュースと選べるようになっていた。

競技・種目が始まる前は皆仲良く準備体操を行った。それから“マルマル・モリモリ”の曲にあわせて踊りながら列を作り、オリエンテーションが行われた。壁や隔たり無く話せてよかった。

それから、赤・青チームに分かれ、男女混合で背の順で並ばせられました。背の高い人は相手チームの玉入れを妨害する役を命じられ、内山君もやらされていた。

玉入れは大人と子供に分かれて行った。最初に大人の方が行い、次に子供達の順で行った。

それからまた整列をさせられ、次は三人で50m離れた所まで協力しながら大玉送り等で使用される玉を使い持って行った。実際やってみると意外と難しく息が合っていないと駄目だと痛感した。

その後、整列して次の競技の説明を受けた。

次は借り物競争で事前に選ばれた人だけが参加し、相手（敵）チームの人から物や人を借りるといったゲーム内容だった。ゼミ長の吉原君も参加していた。

それからまた整列させられ、種目の説明を聞いた。

次は赤・青、両チームとも半分に分かれて2人で協力しながら下敷きの上に乗せたボー

ルを運ぶと言う内容の競技だった。とても難しかったが足の速さでカバーした。

競技も一段落してところで、昼食だった。国際交流センターの方が豚汁、きのこ汁を作ってくれていたようで、100 円と言う安さで皆に配られた。飲み物は無料で貰いました。

楽しい食事も終わり、午後の部は大縄跳び大会だった。各チーム向かい合わせになり背の順で背の高い人から飛ぶと言う形式で行った。先に子供→次に大人の順で行った。

子供はなかなか結果が出せず、上手い出来ない出来事で泣いている子供もいた。

大人は子供の分も挽回しようと必死だった。私達は因みに 32 回飛び、チームで最高回数だった。

最後は皆で記念撮影をし、アイスクャンディーを貰い解散した。とても充実した日だった。



4. Donate

10 月末の長岡大学の悠久祭において、世界の貧困に苦しむ子供たちへの寄附金を得る目的で、ハイグレードバーというお店を出店した。ハイグレードバーではガリアーノやマテイーニ、ワイルドターキーなど世界の有名なお酒を出した。

ハイグレードバーで得た収益金について、ゼミで話し合った結果、ユニセフに全額寄附することになった。ホテルニューオータニ長岡が、ユニセフとの仲介を行っていたので、そこで寄附金を贈呈した。

悠久祭でハイグレードバーを出店し
利益をユニセフに寄付しました。



—ユニセフの募金箱にハイグレードバーの収益金を寄附—



おわりに

グラスルーツグローバルイゼーションの活動を通じて、私達は多くのことを学んだ。グローバルイゼーションは、世界経済全体の拡大など、多大な恩恵をもたらす一方で、経済格差、経済摩擦や、また文明間、各国間、各民族間等での相互理解の欠如からの摩擦、紛争、動乱、戦争など、深刻な問題も惹起させている。

グローバルイゼーションを、平和的にランディングさせるには、世界の各地で皆が会い、語り合い、友情を築いていくことが大切だと考えた。

そして、世界各地の草の根・地域で、世界の人々が出会い、語り合い、友情を築いていくことを、グラスルーツグローバルイゼーションと定義した。

グラスルーツグローバルイゼーションの具体的な活動として、「Study・Invite・Visit・Donate」の方法論を確立し、自分たちなりに、実践していった。

特に、Invite・Visitの活動の中で、外国人の方と、直接対話した経験は大きかった。私達は、自然に、国籍、民族などが違っても、皆、友情と幸せを求める同じ「人間」であり、誠実に対話、交流していけば、素晴らしい人間関係が構築できることを、理屈ではなく体得した。

そして、人間性豊かな交流の拡大こそが、グローバル化を平和的にランディングさせ行く底流となることを確信した。最後に、私達は、次のようなメッセージを記しておきたい。

アメリカのオバマ大統領は、「黒人のアメリカも、白人のアメリカも、ラティーノのアメリカも、アジア系のアメリカもない。あるのはアメリカ合衆国だけだ」と訴えた。私たちは言いたい。「日本人の世界も、アメリカ人の世界も、中国人の世界も、アラブ系の世界も、アフリカ系の世界もない。あるのは世界であり世界市民だけだ」と。

謝辞

私達のグラスルーツグローバルイゼーションの活動に、貴重なお時間を割いてご協力して下さった全ての方に感謝申し上げたい。

特に Invite の活動においては、長岡市国際交流センター十見智子氏、メキシコ人留学生イスラエル・エダンド・レンド・ビロン氏、アガペー聖書バプテスト教会宣教師ウィリアム・ラッセル・スタンフォード氏にお世話になった。

Visit の活動では、アメリカ・フォートワース市の学生との交流会、長岡まつり前夜祭大民謡流し、王寺川国際稲刈り祭り、世界の仲間と運動会に参加できたが、その全ての企画において、長岡市国際交流センターの大隅一氏から貴重なご指導を頂いた。

お世話になった全ての方に心より感謝申し上げたいと思います。